

皮膚粘膜疾患における漢方薬の役割 (小建中湯)



峯 尚志 先生

峯クリニック

1985年 熊本大学医学部 卒業
1986年 医療法人木津川厚生会加賀屋病院にて三谷和合先生に師事
1999年 上海中医药大学に短期留学
2004年 峯クリニック開設

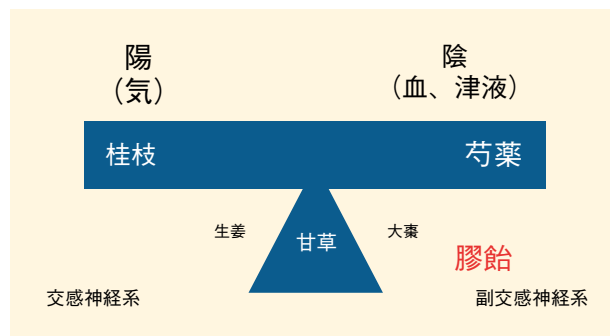
はじめに

ここ数年、冬になると「先生、魔法の薬をください」、とガサガサの皮膚の特効薬として桂枝湯の処方希望して来院する女兒がいる。桂枝湯は虚証の感冒薬とされるが、皮膚を潤す作用(皮膚に栄養を送る)を有している。

桂枝湯の芍薬を増量し(桂枝加芍薬湯)、膠飴を加えた処方が小建中湯である。小建中湯は、芍薬と甘草が腹痛を治し、増量された芍薬と、大棗、甘草、膠飴で陰液を補う処方であり、消化管粘膜を潤し、消化管粘膜傷害を修復して消化管を元気にする作用を有している(図1)。さらに黄耆を加えると、汗腺の開閉機能と排膿の力を高め、皮膚の修復を助ける黄耆建中湯となる。

膠飴について傷寒明理論では「健脾は必ず甘をもって主となす。故に膠飴をもって(君)となし、甘草をもって(臣)となす」とされ、小建中湯の中で最も大切な生薬なのである。

図1 小建中湯の成り立ち



症 例

【症例1】 41歳 女性

現病歴・現症：図2に示す。

経 過：桂枝加芍薬湯合安中散に人参3g、膠飴10gを加え(小建中湯合安中散加人参)処方したところ、一服の服用で胃腸が和らぐ感じがして心下部痛、食欲も改善し、服用一日で元の状態に戻った。

考 察：ウイルス性腸炎後に体調の改善に時間がかかる症例や、アレルギー疾患が悪化する症例をしばしば経験する。このような症例に小建中湯を投与すると、腸がまったりと和らぐ感じがし、体調が改善する例がある。これは、甘草や膠飴の腸管粘膜修復作用によるものと考えている。

図2 症例1の現病歴・現症(41歳 女性)

- ・IgA腎症として加療中。一週間前よりノロウイルスに感染し、心下部痛と吐き下しで近医を受診した。現在吐き下しは止まったが、胃腸の調子が悪く、食欲はまったくなく、胃が重だるく、ときおり心下部痛を自覚する。
- ・現症：身長167cm、体重41kg。脈は沈細弦。舌は胖大で暗淡紅色。白膩苔。腹部は胸肋角狭く、腹力1/5。

【症例2】 81歳 女性

現病歴・現症：図3に示す。

経 過：抗生剤による薬剤性腸炎を疑い、抗生剤の服用中止を指示。下痢は消失したが、血液の混じった粘液が止まらず、下腹部が重くだるく、食欲がまっ

図3 症例2の現病歴・現症(81歳 女性)

- ・ 高血圧にて加療中。眼科にて右目黄斑部変性症のため、注射の処置を受け、抗生剤（セフカベンピボキシル）の投与を受けた。その後、胃のもたれと粘血便を来したため、当院を受診。
- ・ 身長148cm、体重48kg。脈は弦、数。舌は暗淡紅色、腹部はやや腹満し、臍傍に抵抗と圧痛を認める。便潜血陽性。

たくない状態であった。

小建中湯 10g/分2 と 田七人参粗粉末 2g/分2 を処方。一服の服用で効果を実感し、血液や粘液も出なくなり、お腹がまったりと緩む感じがして気持ちが悪くなった。試しに服用を中止すると粘液が出てきたため、再度服用し、1週間で完治した。

【症例3】 31歳 女性

現病歴・現症：現病歴を図4に示す。

身長166.5cm、体重46kg、血圧96/72mmHg。脈拍56/分だが不整。吸収不良症候群のため、ストーマから排液が増加し、1日に4～6L出ることもある。血清K値が低下し、不整脈が頻発。味覚障害があり、亜鉛カプセルを服用。飲食するとただちに排液が始まるが、尿はあまり出ない。目がくぼみ、皮膚は乾燥し、四肢および顔面にアトピー様の発疹がある。50kgあった体重が3ヵ月で46kgまで減少。脈は沈細洪、舌は暗い淡紅色で胖大、舌静脈は怒張。腹部は手術痕があり、腹壁は緊張。血液検査では栄養障

図4 症例3の現病歴(31歳 女性)

- ・ 16歳でクローン病発症。10年前、腸管の狭窄による通過障害のため大腸部分摘出にてストーマを作成した。一時ストーマ閉鎖するもその後、狭窄とイレウスを繰り返し、全大腸切除しストーマ造設。さらに小腸部分切除（30～50cm）を四回行い、5～6mあるはずの小腸が2mしかない。胆嚢摘出。職業は言語聴覚士（自閉症や聴覚障害の子供たちの発声の指導をしている）。半年前より抗ヒトTNF α モノクローナル抗体製剤のアダリムマブを2週に1回皮下注。経口摂取は可能であるが、中心静脈栄養とエレメンタル[®]4包を毎晩睡眠中に6時間かけて鼻腔より注入。それでも栄養不良のため、全身倦怠が著明で目はくぼみ、顔、手指、頸部の皮膚が荒れて乾燥している。

害性の脂肪肝の所見を呈している。また、血清K値が低下し、尿蛋白は2+。

経過：小建中湯の加減法（桂皮4、芍薬8、乾姜2、膠飴20、栝楼根6、連翹6、紅花2、黄耆6g）を処方したところ、お腹の調子が良くなり、食欲が出て、排液も減り、腹水も減少した。腸での水分吸収が改善し、夜間排尿が一回あるようになった。目の落ち込みがなくなり、体重も2kg増加した。2ヵ月後には血清K値も改善し、不整脈は出現しなくなり、倦怠感、皮膚の乾燥やその他の検査所見も改善し、通勤時に25分のウォーキングをするようになり、睡眠も一瞬で眠れるようになった。

考察：小建中湯は腹直筋の緊張という腹証を目標に処方されるシンプルな方剤であるが、顔色につやがない、腹痛、動悸、焦躁感、四肢のだるさと痛み、手足のほてり、咽や口の乾燥といった複雑な病態を治す力がある。処方中の芍薬、甘草、大棗、膠飴に粘膜を修復し、陰を補う作用があるからこそ、このような改善効果が得られたと考えている。

まとめ

小建中湯の君薬は膠飴であり、膠飴の粘膜保護修復作用とそれに伴う腸管免疫の調節作用の重要性が示唆された(図5)。

図5 膠飴

- ・ 性 味：甘、微温
- ・ 帰 経：脾、胃、肺
- ・ 効能と応用：補虚建中、緩急止痛
潤肺止咳

膠飴の粘膜保護修復作用、またそれに伴う腸管免疫正常化作用を忘れないで！

Comments

後山：膠飴はマイナーな生薬のイメージがありましたが、非常にメジャーな生薬であることを再認識させていただきました。